

「玉川上水を世界遺産へ」運動のあゆみ

玉川上水ネット 代表 西村 弘

※世界遺産運動の始まり＝小平ユネスコ協会設立 22年前 関心薄い

- 1 2000年（平成12年）2. 11 小平ユネスコ協会結成。（世界遺産に向けての活動開始）
文化財保護活動のための事業「玉川上水を世界遺産に」プロジェクト
○玉川上水連続市民講座（12回開催）、○講演集発行、○玉川上水フォーラム＝（12回講師によるフォーラム（2007.5.12）、○歩く会、○自然観察会（毎年6回開催）、
○蛍を呼び戻そう、○玉川上水水質調査、○市内小・中学校での玉川上水学習援助

※玉川上水保全再生団体できる＝前身の玉川上水ネット＝小平ユネスコ協会参加

- 2 2003年（平成15年）2 玉川上水ネット設立（現玉川上水ネットの前身）開削350年目、
代表：瀬能誠之
○各種講演会、○開削350年記念玉川上水リレーウォーク、○多摩川の源流を歩く会、
○自然観察会、○写真展 <諸般の事情で活動が中断>

※國が玉川上水の存在価値 認める 國：文化財指定・東京都：歴史環境保全地区指定

- 3 ・1999年（平成11年）3月19日、玉川上水を東京都歴史環境保全地域に指定。
開渠部約30^キ。
・2003年（平成15年）8月27日 玉川上水開削350年目 國の文化財指定（土木遺産）

※玉川上水保全再生団体増える＝現在の玉川上水ネット＝小平ユネスコ協会参加

- 4 2011年（平成23年）7月 玉川上水ネット設立（前身から8年目）代表 柴 俊男
2代目代表 西村 弘（2017.5～）
(1)歴史的価値を周知し、その自然環境と景観及び生物多様性の生態系を保全・再生する。
(2)関係者が交流し、各地域の実情を知り、その課題の情報共有を図る。
(3)管理運営に関わる行政機関や大学等の専門家・研究者と情報交換し、連携を図りながら協働体制を図る。
○玉川上水リレーウォーク 2013（平25）7.7～2015（平27）3.15 2年間 13回開催
開削360年記念リレーウォーク 記録集完成 2016（平28）1.12
○展示・講演等 2013（平25）5月28～6月2日
展示とシンポジウム（6/1）於：新宿御苑インフォメーションセンター
展示：玉川上水の過去と現在 シンポジウム：歴史的価値と環境の豊かさを求めて

※玉川上水ネットの未来遺産運動と連動した活動開始

- 2014年（平成26年）7.12 第4回総会 講演：「玉川上水の未来遺産登録に向けた取り組み」（前都ユ連会長 西村 弘）ユネスコ未来遺産登録提案—議決—取組開始
●玉川上水を未来遺産、日本遺産にそして世界遺産に（活動方針をだして活動開始）

※行政の動き始まる＝中流域首長による玉川上水サミット

- 5 2012年（平成24年）小平市制50年記念事業「玉川上水サミット」於：津田塾大学
参加：小平市、立川市、小金井市、武蔵野市、杉並区の各首長
宣言＝連携して貴重な文化遺産である玉川上水の保全活用をする

※玉川上水・分水網保全再生プロジェクト（玉川上水ネット）日ユ協連の未来遺産認定

6 2016年(平成28年)、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に認定

- 武蔵野台地に広がる広大な「水利システム」の自然環境や歴史的・文化的景観を地域が一体となって保全し100年後の子どもたちに残していく活動

※協賛団体増える 国際RC2750地区東京の水文化を守るフォーラム実行委員会

- 7 2015(平27)5.26 於：東京の水文化を守るフォーラム(六本木ヒルズ)
「東京の水文化を守るフォーラム～玉川上水は世界文化遺産になりうるか～」
主催：国際RC2750地区東京の水文化を守るフォーラム実行委員会、
後援：東京都教育委員会、玉川上水ネット 参加者：400名

※協賛団体増える 玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会

- 8 ①2015(平27)5.29 於：武蔵野スイングホール
「第1回シンポジウム～玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ～」
主催：玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会 代表 田畑貞寿
協賛・運営：玉川上水ネット 参加者：250名
・講演：「玉川上水・分水網を世界遺産に」(元東京都副知事青山氏)、「未来遺産の考え方と玉川上水・分水網」(東大教授 西村幸夫氏)、「重要文化的景観地域指定と保全管理」(文化庁 本中眞氏)、報告「玉川上水リレーウォークから未来遺産申請へ」(玉川上水ネット事務局長 鈴木利博氏)、「玉川上水、分水と武蔵野の集落・農地」玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会 中里崇亮氏)
- ②2016(平28)5.21 於：武蔵野スイングホール
「玉川上水・分水網を日本遺産から世界遺産へ」情報交換会
主催：玉川上水・分水網の保全・再生連絡会(玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会、水循環東京シンポジウム実行委員会、東京の水文化を守るフォーラム実行委員会、玉川上水ネット)

※玉川上水ネット 世界遺産等に向けた学習会開始

- 9 ①2015(平27)10.8 於：小金井前原暫定集会施設
・第1回連続学習会「玉川上水・分水網に学ぶ」
講師：渡部一二多摩美大名誉教授 参加者：40名
- ②2016(平28)2.19 於：こんぴら橋会館
・第2回連続学習会「未来遺産・見沼たんぼプロジェクトの活動に学ぶ」講師：北原典夫氏「未来遺産見沼たんぼプロジェクト推進委員会」事務局長
参加者：30名
- ③2016(平28)3.27 於：小平市中央公民館
・第3回連続学習会「玉川上水・分水網の文化的価値とその保全活動」
(講師：田畑貞寿氏) 参加者：80名
- ④2016(平28)9.21 於：西久保コミュニティーセンター
・第4回連続学習会「各分水網調査報告会」
羽村・立川・小平・武蔵野・三鷹・新宿・品川・三田の8か所

※協賛団体さらに増える 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会（代表：山田正）＝関連5大学との連携始まる 構成：水循環都市東京5大学シンポジウム実行委員会・玉川上水・分水網保全再生連絡会・玉川上水ネット・日本橋水辺再生研究会・外濠再生懇談会＝関連5大学との連携

10 ①第1回シンポジウム2016（平28）10.8～10 於：都庁都民ホール・ギャラリー

「水と緑の回廊・玉川上水と分水網「多摩から江戸・東京をつなぐ水環境の保全・再生」～東京オリンピック・パラリンピックを契機として～

主催：玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

展示テーマ：江戸東京の水循環と玉川上水・分水網

●水循環都市東京（コーディネート：水循環都市東京5大学連絡会）

①中央大学（玉川上水の機能を活かして水都東京をつくる）、②法政大学（水都東京をつくる外堀の新たなイメージ）、③日本大学（自然と歴史を活かし災害に強い美しい世界の水都東京を造る）、④東京理科大学（水都東京に向けて一まち・かわ・ほり）、⑤東京大学（オリンピックと水～東京から世界へ）

●武蔵野台地に刻まれた水と緑の回廊“玉川上水と分水路”（コーディネート：玉川上水ネット）①福生＝今も残る集落の形（田村・熊川分水）—玉川上水遊歩道を考える会、②立川＝砂川・柴崎分水は武蔵野台地の先駆者＝玉川上水の自然保護を考える会、③小平＝小平用水路網50KMは生きている—学び舎江戸東京ユネスコクラブ、小平ユネスコ協会、④武蔵野＝市民がつくる水と緑のネットワーク～千川上水と仙川—武蔵野ユネスコ協会、玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会、⑤三鷹＝武蔵野台地に息を吹き込んだ砂川・品川・牟礼分水—三鷹環境市民連、井の頭の歴史を知る会、⑥新宿＝玉川上水の歴史と新宿—NPO法人新宿環境活動ネット、⑦品川＝品川用水に残る「面影」と出会うマップ—品川用水復活研究会、⑧三田＝三田上水と三田用水—渋谷川・水と緑の会の8か所、玉川上水いきものたちの通りみち（小平—ちいさな虫や草やいきものたちを支える会）

講演会・シンポジウム

基調講演：ドイツ・ルール地方エムシャー水系の修復について（クリスティンポール氏）、「東京水循環の過去・現在・未来」（山田正氏）

シンポジウム

②第2回シンポジウム2017年（平成29年）8.19 於：江戸東京博物館

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生～東京オリンピック・パラリンピックを契機として～

主催：玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

活動報告

・玉川上水・分水網の保全活用プロジェクトの未来遺産登録

玉川上水ネット代表 西村 弘氏

・日本橋の水辺再生へ取り組み 日本橋水辺再生研究会会長 山本泰人氏

基調講演

・江戸東京の発展と玉川上水・分水網 江戸博学芸員 真下祥幸氏

・「多摩から江戸東京をつなぐ水循環の最盛保全～玉川上水の河川水の見試し通水 中大教授 山田 正氏

③第3回シンポジウム2018年（平成30年）12.1 法政学市谷キャンパス

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」～市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選（玉川上水・分水網にまつわるお宝をみんなで次の世代に伝えていき

ませんか)

主催：玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

・報告(1) 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の選考について

選考委員長 西村幸夫氏 (プロジェクト未来遺産委員長・神戸芸術工科大教授)

・報告(2) 玉川上水の試験通水について

山田 正氏 (中大教授)

・パネルディスカッション 「玉川上水・分水網関連遺構 100 選と試験通水を巡って」

西村幸夫、陣内秀信 (法大教授)、竹村公太郎 (日本水フォーラム代表理事)、真下祥幸、山本泰人の各氏

④第4回シンポジウム 2020年(令和2年)1.18 東京しごとセンター

「玉川上水系(玉川上水・分水網・外濠・日本橋川)保全再生の道」

主催：玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

・玉川上水系の保全再生活動報告 (細見 寛氏)

・基調講演「武蔵野台地の水循環」(河村 明氏)

・わが町の玉川上水系関連遺構 100 選 (関連市民 4 団体代表)

・講評「関連遺構 100 選」(陣内秀信氏)

・意見交換「玉川上水保全再生の道」(市民団体・若手研究者有志)

・総評「玉川上水保全再生へ」(山田 正氏)

●市民が選んだ玉川上水・分水網関連遺構 100 選 (水系ごとに発掘しその共有化を図ることにより、かつての玉川上水・分水網の広大な記憶を蘇らせる目的)

2018、2019 年度実施、2020 年 1 月の第 4 回シンポジウムで公表

・東京連絡会が中心となって玉川上水ネットもお手伝いしながらまとめる (関連地区市民団体 38 団体参加)

・選考委員：(委員長) 西村幸夫、鼎信次郎、知野泰明、真下祥幸、開発法子、小坂克信、山本泰人の各氏 (事務局長：辻野五郎丸)

※東京都「未来の東京」戦略ビジョン公表(2019年(令和)12)

＝外濠浄化の推進を契機として「水の都」東京を蘇れせる(長期的に玉川上水の水を元の多摩川から引き、本来の玉川上水の姿を蘇らせる可能性を展望→2021. 2022 年度予算化)

※玉川上水ネット設立 10 周年記念事業＝「玉川上水上下流連携(羽村～日本橋)地区別展示と講演」での活動

11 ①第1回 羽村・福生・昭島地区 2022年(令和4年)4.14～17 於：福生市民会館

展示：「多摩川河岸段丘と玉川上水」

講演：「玉川上水の清流復活への道」(山田 正氏)

報告：「遺構 100 選について」(辻野五郎丸氏)

②第2回 国分寺・小金井・西東京地区 2022年(令和4年)6.14～20 於：武蔵野市民会館

展示：「江戸近郊の発達と玉川上水」

報告：「遺構 100 選について」(辻野五郎丸氏)

講演：「玉川上水と武蔵野の水循環」(河村明氏)

講評：山田 正氏

③第3回 小平・野火止用水地区 2022年(令和4年)9.23～25 於：小平市中央公民館

展示：武蔵野台地の新田開発と玉川上水
講演：「新田開発の面影を留める玉川上水・中流部」（小平市学芸員小川 望氏）
報告：「遺構 100 選について」（辻野五郎丸氏）
講評：「玉川上水の歴史的文化的価値について」（陣内秀信氏）

④4 回 立川地区 2022 年（令和 4 年）9.28～10.2 於：立川市女性総合センターアイム

展示と報告：立川市のお宝「玉川上水・分水網関連遺構」（萩本悦久氏）
講演：「玉川上水の開削と砂川の集落」（真下祥幸氏）
講演：「玉川上水の分水の水車—砂川用水を中心にして」（小坂克氏）
報告：「遺構 100 選について」（辻野五郎丸氏）

⑤5 回 新宿および関連地区 2022 年（令和 4 年）11.17～20 於：新宿区四谷区民センター

展示：玉川上水・分水網関連遺構 100 選 杉並～新宿間の関連遺構紹介
講演：「江戸御府内と玉川上水」（真下祥幸氏）
講演：「水循環と防災に視点から見た外濠」（細見寛氏）
話題提供：「玉川上水と渋谷川・三田用水のハイブリッドな水システム」（梶山公子氏）
報告：「遺構 100 選について」（辻野五郎丸氏）

~~~~~  
**玉川上水・分水網の存在価値（世界遺産となりうる）**

玉川上水・分水網は武蔵野台地（南は多摩川、北は荒川に至る蔵野台地（700 平方 KM）の分水嶺を東西に貫き、かつての江戸・東京の発展を支えてきた水の大動脈（広大な水利システム）だった。

そして、武蔵野台地に 34 の分水をうがち、武蔵野の新田開発に役立ち、中小の河川やお濠に注ぎ、世界に誇る水文化都市江戸・東京の形成に大きく寄与してきた「広大な水システム」だった。

120 万人を抱える江戸時代の江戸はイタリアのベネチアをしのぐ世界に誇れる「水の都」だった

しかし、この「広大な水利システム」は、1960 年代に新宿の淀橋浄水場が移転され（1965 年（昭和 40 年）、玉川上水の小平監視所から下流には水が流れなくなったことや、小河川が下水路に変更され東京から小川は消えたこと、川の上に首都高速道路が造られるなどの東京の高度な都市の発展に伴い、大きく変貌してきた。

今後、持続可能な社会形成のモデルとして東京都が公表した「未来の東」戦略ビジョンでいう「**東京の水と緑溢れるまちづくり**」が都民や行政の理解を得て、玉川上水・分水網や外濠、日本橋川等の価値が再認識され、多摩川からの清らかな水の流れ、美しい水辺環境がかつてのような姿に可能な限り再生された暁には、「玉川上水・分水網の広大な水利システム」は世界遺産となりうる価値がある。

**水都東京の再生**

水都東京の再生には、水質浄化が欠かせない。透き通った水面があれば、自然と人は集まり水辺を楽しむようになる。そのためにも、外濠・神田川・日本橋川の水質浄化は喫緊の課題といえる。江戸の民の喉を潤すため玉川上水は建設された。次世代の玉川上水は東京都民の心を潤すために再生するべきである。  
(2022. 12. 20 記)